

## 小中学校規模適正化の説明会in葛川市民センター（2017年1月）

まとめ：藤井哲也

### 【質疑応答】

Q コミュニティスクールについて詳細を。

A 将来的には全ての学校をコミュニティスクールにしていきたい。

これまで以上に地域と一緒に学校を運営していきたい。

Q 30数年前に教育委員会の中で統廃合を考えなあかんという意見があり、ちょっと待ったということでのいろいろな取り組みをしてきた。今後は、小学校区単位で検討をしていくということであるが、葛川の位置付けはどう考えておられるのかを聞かせていただきたい

A 今は一つの学区に一つの学校であるが、学校がなくなれば学区に対する考えも変わってくるので、一緒に十分考えていきたい。単純な問題だとは考えていない。

Q 適正化の具体的なスケジュールは考えているのか。また、何人以下になれば統廃合という線引きはあるのか。

A 今年度、小中学校の適正化ビジョンについて考えてきたが、まずは今の状況を課題の共有をしていきたい。説明会が終われば、保護者の方とどういった学校にしていきたいのかを検討していきたい。その後は、地域の人も交えて検討していきたい。

なお、具体的な期限は決めていない。今後十分に協議していかないといけないと考えている。小規模な学校に対する定義は、クラス替えができないと考えているが、小規模であっても継続していくのならば、どのように継続していくのかを考えていく必要がある。

Q 「小規模特認校」になれないかと考えている。しかし、通学手段がネックになっている。町から離れているので通学手段を確保しないと、実際に特認校になっても通学先として選択する人は限られているのではないか。そうしたことから、特認校についても追加説明を頂きたい。

また、葛川の置かれている現状の中で、村人は積極的に関わると思うが、それだけでは難しいので、市の方が何か積極的な応援をしてくれるのかも合わせて聞きたい。

A 特認校についての概要について説明がなされた。その上で以下の回答。

通学手段をどうするのかといえば、一つ考えられるのはスクールバスがあるのでそれを利用するというのも考えられるが、それも皆さんと一緒に考えていきたい。全国にも特認校制度があるが、必ず出てくる問題は、葛川以外から来てくれる

子が増えてくれば、外の子供ばかりになるが、その時に地域としてその学校を支えていただくことになるが、それができるのかどうかである。十分にご検討していただく必要がある。

なお、特認校になった際のアナウンス（募集）は、市教委からするが、地元としても独自に取り組みもして頂く必要もある。わざわざ来るといふならではという教育を進めていくということが必要になってくる。特色作りについても支援していく。

Q 葛川小中に通う京都市域児童への留意とは？

A 京都のクタの住民の方と葛川の住民の方がこれまで「KT」の取り組みをやってきた経緯を大事にしながら、地域の人がどういった意向を持っているのかを確認した上で進めていきたい。

#### 【意見交換】

・学校規模適正化の話が出てから、PTAでも話し合ってきた。今、学校がなくなるのは反対意見がほとんど。過疎化が進まないように小中一貫教育や特認校制度などでなんとかしていきたい。移住してきて、すぐなくなるのであればダメなので、行政主導で進めるのはやめてほしい。オープンスクールと移住をセットで考えてほしい。

・いち早く考えていただいていると感じた。どんな方策がいいのかを今後考えていきたい。いただいた意見も市教委の中で理解していきたい。

・小規模特認校になった場合、外の生徒ばかりになった場合どうするのかという意見もあった。コミュニティ・スクールは初めて聞いたが、そういう意味では親御さんも一緒に考えていくということができないか。生徒数の減少というのは、教育環境という点では危惧をしている。葛川にもっと子供さんがいる家庭に移り住んでもらいたい。

・コミュニティ・スクールというのは、地域のことも考えていく制度ですので、来年度については既に認定校が決まっているが、30年度からの認定に向けて進めていただくと幸いです。

・現在、葛川を愛する移住者を募集したり、空き家の活用もしている。大津市の協力もいただいて学童保育を地域の協力をいただいて実現できている。しかし、保育所や学童がないということで、去って行かれた方もこれまでにいる。私は、山村留学の時に関係したものだが、その時は市は「関係ないから」という答えだったが、その時のメンバーで集まっているいろいろと自主的にやってきた。

・市教委として提供できる情報は提供していきたい。

・この学校は左京区の学童も来ている。高島市にも隣接している。適正化の問題になると、隣り合った自治体との連携が必要になってくるのではないかと。京都市と高島市ともっと連携・協調を。現在は、うまくいっていないように思う。

・統計データの話になるが、児童数の近い未来の推計について、これは現在の小さい子供から推計していると思うが、これが現在の小中学校の児童のあり方から考えると、かけ離れたものになっているのではないか。つまり、現在は7割から8割が外から移住してきている子供で占められている。そう言った中で、話がおかしいなというのを感じる。また、こうしたデータを用いるのは、実際の外から見た、葛川へのマイナスイメージになる。移住希望者のことや、移住を促進しようと頑張っている地域のことも配慮していただきたい。統計が一人歩きするようなことはないように、検討していただきたい。

・適正化ビジョンや統計データについては全市一体で作っているのだから、ある地域にとってはそぐわないものとなっているのは承知している。中身についても突っ込んだ部分も今後一緒に検討していきたい。子供たちにとってどういう選択がいいのかを保護者の方や地域の方と話し合っていきたいと思っている。将来の事を考えて話し合っていきたい。1年、2年で結論が出る問題ではないと考えている。統計データの件についてはその通りだと考えている。地域にあった形で進めていきたい。

・子供の数の推移ですが、合計特殊出生率ですが、津市内いろいろありまして、住宅開発で増えているところもあれば、社会的な移動については見込みづらいところがある。急激な変動があればその都度見直していき、その上で話し合っていきたいと思っている。将来的にこうなるというものではない。

・市教委だけの問題ではないというのはその通りだ。その当時の学校教育課長は「協力できない」という方針だったが（山村学校について）、最終的に地元の取り組みもあり補助金をもらいながら、山村教育を進めてきた経緯がある。学区の存続の問題がある。学校だけと話ししたということではなく、地域の人も交えて考えていただきたい。

・子供とは直接関係ないことだが、学校は空き教室や空き土地が増えており、もう20年も前になるが、使わせてほしいということで土曜日の学校で使わないときはグラウンドゴルフで使わせてもらっている。今後、空き教室についても老人クラブで借りることはできないのか。学校の授業の日も、スクールバスも利用させていきたいので検討してほしい。

・これまでからも、いろんな形で学校利用について話がありました。学校開放について統一のルールの下で進めているが、なんでもかんでもいいのかといえば、教育施設であるので施設管理面のこともあるし、補助金のこともあるため単独の市の判断だけでできないこともある。具体的にどういった時間でどういった内容でというのは話ししてもらえれば、現時点ではなんとも言えないが、ルールの中で、ご相談を受けていきたい。

・小規模な学校であれば感性が磨かれる。これからの時代には必要ではないか。

・横のつながりだけではなく、縦も（小学校6年間の縦）考えていく必要がある。多様性を尊重する社会というのは非常に重要だと考えてる。少子化が進んでいくので多様化を尊重した教育ができるのではないか。

- ・人間関係をシャッフルできれば解決できることもあるが、葛川では人間関係をシャッフルできにくいので、自分で考え方を変容させていけない部分もある。人間的な成長をしていくためにそうしたことは非常に重要に感じている。
- ・他の学校との交流会は重要になってくる。学区内の文化しかないので、交流を進めていくのがいいことだと感じる。
- ・多人数の人と関わることは果たして一律的にいいことなのかわからない。小規模で不安もあったが人数ではないと感じる。この学校の子は、6年生が1年生の面倒を見て、老人クラブとも話をしてアドバイスをしながら、多様なものの見方にもつながっている。人数が多いから多様性が得られるというわけではないと考えている。
- ・「クラス替えしなあかんのか」ということをずっと考えていた。人間関係を構築するためにはと書いているが、偏った考え方ではないか。葛川はここ何十年も少人数の中でやってきたが、それは間違いだったのか。すっきりしない。
- ・2人の子供がここで生まれ育った。高校はオーストラリア。そこの学校の先生がこちらにやってきたり、ホームステイさせていただいていた家族が来てもらっていた。子供が自分が面白いところ（葛川）で育ったということを聞いて、学校の先生とかも来た。

以上